

# 備陽史探訪

会則改正記念号  
発行  
備陽史探訪の会  
福山市多治米町5-19-8  
TEL. (0849) 53-6157

## 現在・過去・未来

### 会則の全面改正にあたって

田口 義之

去る一月二十四日(日曜日)、備後遺族会館に於いて、備陽史探訪の会平成十一年度総会が、七十余名の出席者を得て、厳かに開催された。議事は滞り無く進行し、新年度計画・予算案は共に賛成多数で承認された。

会長に就任して今回で九回目を迎えた総会だが、何度経験しても緊張するものである。むしろ会務についてやましい点があるためではない。それは競技者がスタート地点に立った感慨と似ている。

本会も今年で創立十九年目を迎えた。長いようでもあり、短いようでもある。本会の歴史は、大げさに言えば「個」の欲求と「集団」としてのその相克の歴史であった。

創立当初は会員数も少なく、この相克は表面に現れることはなかった。会員各々が歴史の研究者であり、会

はその研究発表の場であったからだ。しかし、この相克は創立二年目にして早くも表面化した。

会員が三十名を越えようと、どうしても「個」の欲望よりも「全体」の利益を優先する。「全体」の意志は多数決で決まるから、少数の者には不満が残る。「我々はこんな史跡巡りの世話をするために会に入ったのではない……」と言うわけだ。

そこで採られた手段が「部会」の設置である。部会は最初に城郭研究部会が産声を挙げ、続いて現在のよう古墳・歴史民俗の各部会が誕生した。部会は研究対象を限定した会員のグループで、部会の活動に打ち込むことが会の活動になるはずであった。

ところが、である。問題はそんなに簡単なものではなかったのだ。創立以来日も浅かった会の主要メンバーは、会の役員でもあり部会の幹部でもあるという矛盾した立場にあった。部会の活動に打ち込もうとしても、まわりだした歯車は止まら

ない。どうしても会の活動の世話にかりだされる。不満は鬱積していった。

そうしたなかで提起され承認されたのが今回全面改正された旧会則である。だからこの旧会則には今読み返してみると異様に思えるほど「部会」の「独立」が強調されていた。

この旧会則を討議するために何度あの旧青年の家に缶詰にされたことか。

しかし、規則は制定することに意義があると言うべきか。会の内紛が収まるとともに、いつしか忘れ去られ、なんと十年の間「お蔵入り」となっていたのだ。この間会の勢いは一時の低迷ムードを脱し、今日会員三百名を擁する全国的にも注目されるグループとなったのは御承知の通りである。

そこで、今回の会則の全面改正である。今回の改正は、旧会則が内紛の火種をはらみつつ制定されたような、「危機意識」の中で提起されたものではない。それは「合理性」を追求する中で生まれたものである。

会員数の増加と、会の活動の活性化は必然的に会の事務局の仕事を増加させた。現在事務局は年六回の会報の発行、同じく年六回の行事案内の制作と発送をこなしている。会報は当初の六ページから今や二〇ペー

ジは当たり前という状態である。行事案内も事務局長の情熱で六ページ以下は例外的な存在である。また、例会の運営にあたる事務局の苦勞も並大抵のものではない。例会の運営は、講師を当日のスターとすれば、事務局は全くの日陰の存在である。それでも彼らは黙々と会の運営に励んでいる。

会勢の伸張と事務局の仕事量の増大は、必然的に会則の改正を必要とした。対外的に、また対内的にも「ルール無し」の会の運営はもめ事の種である。また、明確な責任の所在がないと事務もやりづら。こうしたことから今回の会則の全面改正が提議されたわけだ。いわば今回の改正は会の体制を明確化し、会の活動を一層盛り上げるための手段であると見えよう。

但し、会則は会則である。「一枚の紙切れ」にそれだけの力はない。要はそれを使う「人間」の情熱と意志に懸かっている。古人は「新しいミルクは新しい革袋に入れよ」といった。我々も新しい年を迎え、新しい衣装で、意欲的な仕事をしたものである。

# 備陽史探訪の会会則

## 前 文

「山間の溪流集まって滔々たる大川となり、一村一邑の小歴史集まって、浩瀚なる国史は構成せられる」これは大正14年1月15日に創刊された備後郷土史会機関誌「備後史談」発刊の辞である。日本史と世界史と、地域の歴史の集合体に過ぎない。本会は、昭和55年9月、こうした先人たちの遺志を継ぎ、備後を中心とした地域の歴史を明らかにすることを目的に結成された歴史研究の集いである。

## 第 1 章 総 則

### 第1条 (名称)

本会は備陽史探訪の会(びようしたんぱうのかい)という。

### 第2条 (設立目的)

備後を中心とした地域の歴史を研究し、愛郷の精神を涵養する。

### 第3条 (事業)

本会は前条の趣旨に沿って次の事業を行なう。

1. 会報『備陽史探訪』および行事案内の発行。
2. 機関誌『山城志』の発行。
3. 例会の実施。
4. 各種講座・講演会・シンポジウムの開催。
5. その他。

## 第 2 章 会 員

### 第4条 (入会・会員)

会員は本会の設立目的に賛同し、所定の会費を納入した者とする。

### 第5条 (退会)

1. 退会しようとする者は会長へその旨届け出なければならない。
2. 新年度、内規によって定めた期間内に会費の納入がない場合は退会したものとみなされる。

## 第 3 章 会 費

### 第7条 (年会費)

会員は次に定める会費を納入しなければならない。

- |              |       |
|--------------|-------|
| 1. 一般会員      | 3000円 |
| 2. 夫婦・親子会員   | 4000円 |
| 3. 大学生・専門学校生 | 2000円 |
| 4. 高校生       | 1500円 |
| 5. 小・中学生     | 1000円 |

### 第8条 (中途入会)

年度中途に入会しようとする者は内規に定める会費を納入しなければならない。

## 第 4 章 総 会

### 第9条 (意義)

総会は本会の最高意思決定機関である。

### 第10条 (種別)

総会は通常総会と臨時総会とする。

### 第11条 (開催)

1. 通常総会は毎年1回、会計年度の終了後2ヶ月以内に開催する。

2. 臨時総会は役員会が必要と認めるとき、もしくは監査委員から招集の請求があった場合に開催する。

#### 第12条 (議長)

1. 総会の議長は出席者の中から互選によって選出する。
2. ただし、監査委員の請求により招集された臨時総会の議長は、出席会員によって選挙を実施し、過半数を得た者を選任する。

#### 第13条 (総会に付議する案件)

1. 当該年度の実施行事の審議、承認。
2. 当該年度の決算の審議、承認。
3. 新年度活動案の提案、審議、承認。
4. 新年度の予算原案並びに事業計画原案の審議、承認。
5. 会則改正の承認。
6. 役員選任の承認。
7. 監査委員の選任の承認。
8. 名誉会長・名誉会員・顧問選任の承認。
9. 研究部会の廃立の承認。
10. その他、本会の運営に関する議案の承認および提案、審議、議決。

#### 第14条 (議決方法)

総会の議題は出席会員の過半数の同意によって決定する。ただし、可否同数の場合は議長の決するところとする。

#### 第15条 (代理委任)

会員が総会に出席できない場合は、代理委任状をもって議決権・提案権を行使できる。

#### 第16条 (定足数)

1. 総会の定足数は、総会開催時の会員総数の1/4以上とする。
2. ただし、代理委任状提出者は定足数に加えるものとする。

### 第5章 役員等

#### 第17条 (種別・定数)

本会に次の役員を置く。

- |         |     |         |         |
|---------|-----|---------|---------|
| 1. 会長   | 1名  | 5. 参与   | 若干名     |
| 2. 副会長  | 若干名 | 6. 部会長  | 各部会で1名  |
| 3. 事務局長 | 1名  | 7. 副部会長 | 各部会で若干名 |
| 4. 事務局員 | 若干名 | 8. 評議員  | 各部会で若干名 |

#### 第18条 (名誉会長)

1. 本会に名誉会長を置くことができる。
2. 名誉会長は役員会が推薦する。
3. 名誉会長は名誉職であって任期はとくに設けない。

#### 第19条 (名誉会員・顧問)

1. 本会会員の外に名誉会員・顧問を置くことができる。
2. 名誉会員は本会の特別講師を務めた者等の中から役員会が推薦する。
3. 名誉会員は会員に準じる資格をもつものとする。
4. 顧問は本会の発展に際して功績のあった外部者の中から役員会が推薦する。
5. 顧問は役員会の要請に応じて会の運営に助言を行なう。
6. 名誉会員・顧問の任期はとくに設けない。

**第20条 (役員を選任・承認)**

役員は総会において会員の中から選任する。

**第21条 (役員職務)**

1. 会長は本会を代表し、その会務を総括する。
2. 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、役員会の承認の上、その職務を代行する。
3. 事務局長は会長および副会長を補佐し、本会の事務局を統轄する。
4. 事務局員は事務局長の指示に基づき、本会の事務を執行する。
5. 部長は各部会の活動を管轄する。
6. 副部長は部長の職務を補佐する。
7. 評議員は部会を代表して本会の業務の提案、討議を行なう。
8. 参与は本会の活動を支え、見守る立場から、長年の経験を活かして業務の提案、討議を行なう。

**第22条 (役員兼務)**

他の役員職との兼務を妨げない。

**第23条 (役員任期)**

役員任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

**第24条 (役員辞任)**

役員は、その会務の執行をなせないやむを得ぬ事情が発生した場合、または、会務において重大な過失を引き起こした場合、役員会の承認を得た上で辞任することができる。

**第6章 事務局****第25条 (事務局職務等)**

1. 本会の事務を執行するため事務局を設置する。
2. 本会の事務局は備陽史探訪の会会長宅に置く。
3. 事務局は会長・副会長の指示に基づき、会務全般を執行する。
4. 事務局に会計担当者1名を置き、本会の会計を処理する。

**第26条 (内規)**

事務局は会務に関して必要な内規を設けることができる。

**第7章 監査委員および監査****第27条 (定数)**

本会に2名の監査委員を置く。

**第28条 (職務)**

1. 監査委員は会計の監査を行なう。
2. 監査委員は臨時役員会および臨時総会を招集できる。

**第29条 (監査期)**

監査は本会会計年度終了の翌月に実施する。ただし、監査委員が必要と認めた場合、年度中途であっても臨時に監査を実施できる。

**第30条 (兼務の禁止)**

監査委員は役員との兼務を禁ずる。

**第31条 (任期)**

監査委員の任期は2年とする。ただし再任を妨げない。

**第8章 役員会****第32条 (種別および開催)**

1. 役員会は通常役員会と臨時役員会とする。

2. 通常役員会は年6回、原則として2ヶ月に1回開催する。
3. 臨時役員会は、会長が必要と認めるとき、もしくは監査委員から請求があった場合に開催する。

**第33条 (役員会の議事内容・職務)**

1. 次年度の予算原案の討議、総会への提案。
2. 年度中、予算の執行状況の監察。
3. 次年度の活動原案の討議、総会への提案。
4. 年度中、業務執行状況の監察。
5. 名誉会長・名誉会員・顧問の総会への推薦。
6. 研究部会廃立の発議。
7. 研究部会の臨時活動・部会誌等の出版物発行の承認。
8. 会則改正の発議。
9. 補足事項の承認。
10. その他、本会運営に関する諸案件の討議、議決。

**第34条 (細則の制定・告示・施行)**

役員会は会務運営に関して細則を設けることができる。

**第35条 (議長)**

役員会の議長は原則として会長が務め、会長が欠席の場合には互選により決定する。

**第36条 (議決方法)**

役員会の議事は出席役員の過半数の同意によって決定する。可否同数の場合は議長の決するところとする。

**第37条 (代理委任)**

役員が役員会に出席できない場合は、代理委任状をもって議決権・提案権を行使できる。

**第38条 (定足数)**

1. 役員会の定足数は役員総数の1/4以上とする。
2. ただし、代理委任状提出者は定足数に加えるものとする。

## 第9章 研究部会

**第39条 (研究部会の種別)**

本会は古墳研究部会・城郭研究部会・歴史民俗研究部会を置き、別に定める諸活動を行なう。

**第40条 (部会員)**

部会員の資格はとくに設けない。

**第41条 (活動計画)**

1. 部会の活動は総会で承認された年度計画に従って実施される。
2. ただし、部会の責任において臨時の活動計画を立て、これを実施できる。

**第42条 (活動内容)**

1. 古墳研究部会 主として古墳と古代史の研究。
2. 城郭研究部会 主として城郭と中世史の研究。
3. 歴史民俗研究部会 歴史全般と民俗一般の研究。

**第43条 (部会誌・出版物の発行)**

各研究部会は部会誌等の出版物を発行できる。

**第44条 (研究部会の廃立)**

1. 新たに研究部会を設立する場合は、役員会において発議し、総会において議決す

る。

2. 研究部会を廃止する場合は、役員会において発議し、総会において議決する。

## 第10章 資産および会計

### 第45条 (資産の構成)

本会の資産は、会費・出版物の販売・寄付金・補助金・特別会計、その他の諸収入によって構成される。

### 第46条 (資産の管理)

本会の経理は、会長の総括下、事務局長が管理する。

### 第47条 (事業年度)

本会の会計年度は、毎年1月1日に始まり、その年の12月31日に終わる。

### 第48条 (活動計画および予算)

本会の活動計画およびこれに伴う予算は、会長が編成し、役員会の討議を経て、総会で議決する。

### 第49条 (活動報告および決算)

本会の活動報告書および決算書は、会長が作成して役員会に示し、監査委員の監査を経て、総会で承認を得る。

### 第50条 (余剰金の扱い)

当該年度の余剰金は、総会の議決を経て、翌事業年度に繰越金として繰り越すことができる。

### 第51条 (特別会計)

寄付金等により多大な余剰金が生じた場合には、資産として別途に特別会計を組むことができる。

## 第11章 会則の改正

### 第52条 (改正の手続き)

1. 会則の改正は、役員会の討議を経て、役員会がこれを発議する。
2. 総会は役員会の発議を受けて改正の議決を行なう。
3. 会則の改正は総会出席会員の過半数の同意によって決定する。ただし、可否同数の場合は議長の決するところとする。

### 第53条 (改正会則の告示)

改正会則は直後の会報によって告示される。

### 第54条 (施行)

改正会則は告示日に即日施行される。

## 第12章 補足事項

### 第55条 (補則事項の制定・公表)

1. この会則に定めるもののほか、本会の運営に必要な事項は会長が別に定め、後に役員会の承認、総会の認証を受ける。
2. 補足事項は決定直後発行の会報または行事案内で公表される。

## 付 則

第56条 1981年4月26日会則制定、施行する。

第57条 1986年2月22日一部改正、施行する。

第58条 1988年2月22日一部改正、施行する。

第59条 1998年1月25日一部改正、施行する。

第60条 1999年1月24日全面改正。2月13日告示、施行する。

## 平成10年度活動報告

### 郷土史講座・特別講演会

日程	講座内容	講師	会場	参加数
1/25(日)	総会記念講座 『備後有地氏の盛衰』	田口義之	遺族会館	68名
2/21(土)	第2回郷土史講座 『邪馬台国時代の吉備と出雲』	網本善光	福山市民図書館会議室	53名
3/28(土)	第3回郷土史講座 『備後の式内社について』	平田恵彦	中央公民館	42名
4/25(土)	第4回郷土史講座 『太田庄地頭三善氏について』	木下和司	中央公民館	34名
5/30(土)	第5回郷土史講座 『毛利元就は戦国大名か?』	出内博都	福山市民図書館会議室	43名
6/27(土)	第6回郷土史講座 『記紀・万葉集にあらわれるふるさとの神々』	柿本光明	中央公民館	31名
7/25(土)	第7回郷土史講座 『津山周辺の古墳について』	山口哲晶	中央公民館	37名
8/22(土)	特別郷土史講座 『他界は何処-古墳文化の本質を探る-』	辰巳和弘	広島県立歴史博物館講堂	約160名
9/26(土)	第9回郷土史講座 『家庭内の神祭りについて』	石井良枝	中央公民館	24名
10/24(土)	第10回郷土史講座 『古代の山城について-鬼ノ城から-』	七森義人	中央公民館	47名
11/28(土)	第11回郷土史講座 『岩成庄と正藤山城について』	坂本敏夫	中央公民館	40名
12/12(土)	特別郷土史講座 『大伴旅人とその周辺』	戸田和吉	サンビ7福山	44名

### バス・徒歩例会・古墳めぐり・1泊旅行

日程	行事内容	講師	参加数
2/15(日)	徒歩例会 『芦田町の史跡めぐり』	田口・芦田郷土史会	約130名
3/29(日)	バス例会 『雲井城に登る』	城郭部会	48名
4/19(日)	バス例会 『西大寺・牛窓の史跡めぐり』	歴史研	92名
5/5(火・祝)	第16回観と子の古墳めぐり 『金江町の古墳を歩こう』	古墳部会	約160名
6/7(日)	バス例会 『大田庄に中世を訪ねる』	田口・木下	54名
9/20(日)	バス例会 『秋の古墳めぐり 陶棺の謎にせまる-瀬山の古墳めぐり-』	古墳部会	41名
10/17・18(土日)	一泊旅行 『燃える秋 但馬・丹後を味わう旅』	旅行委員	41名
11/8(日)	バス例会 『三次市の史跡めぐり』	城郭部会	52名
12/6(日)	徒歩例会 『初冬の服部谷に中世の面影を訪ねる』	田口・木下	82名

### 古墳講座V現地学習会

日程	行事内容	参加数	日程	行事内容	参加数
1/10(土)	備前車塚登山会	15名	7/4(土)	鯉魚ライフパーク見学会	13名
2/7(土)	大佐山白塚見学会	20名	9/4(土)	本郷町の巨石見学会	22名
3/7(土)	加茂造山古墳見学会	21名	10/3(土)	三ツ城古墳見学会	12名
6/6(土)	辰ノ口古墳見学会	18名	11/1(日)	「発掘された日本列島'98」見学会	15名

### 定期講座

日程	講座内容	部会	講師	会場
①毎月第2土曜日	『古事記』を読む	歴史民俗研究部会	神谷・平田	中央公民館
②毎月第3土曜日	『備後古城記』を読む	城郭研究部会	出内博都	中央公民館

## 《城郭研究部会活動報告》

- ①月例研究会「中世を読む会」原則として第3土曜日午後7時から。中央公民館で開催。  
『備後古城記』檀上本の読解・研究会。一書精読。毎回14名～19名が参加。
- ②郷土史講座担当
- |                          |      |
|--------------------------|------|
| ★1/25(日) 『備後有地氏の盛衰』      | 田口義之 |
| ★4/25(土) 『太田庄地頭三善氏について』  | 木下和司 |
| ★5/30(土) 『毛利元就は戦国大名か?』   | 出内博都 |
| ★11/28(土) 『岩成庄と正藤山城について』 | 坂本敏夫 |
- ③バス例会担当
- ★3/29(日) 『庄原雲井城に登る』  
一昨年よりの宿題が好天に恵まれて実施された。戦国末期の山内氏の総合的城郭で、実戦本意の「甲城」のみでなく、山麓一帯の遺構に集住、城下町への萌芽が見られる遺跡である。
- ★11/8(日) 『三次市の史跡めぐり』  
高杉城跡(県史跡、知波夜比古神社)、熊野神社(校子造りの正倉)、比熊山城跡(戦国末期の総合的な山城)、鳳源寺(阿久里・赤穂義士縁りの寺)、三好ワイナリー等をめぐる。
- ④オリジナル企画4/12(日) 桜山城登山会。地元「歴史と観光の会」の案内で勝手より登る。山名時代、小早川隆景時代、幕末浅野時代それに桜山茲俊の伝承がからみ、内容的には複雑な遺跡を残していた。下山後、宗光寺はじめ寺社見学。参加人数は約50名。
- ⑤山城現地踏査  
城郭部会有志によって備後の山城大小合わせて約60城を探訪した。

## 《古墳研究部会活動報告》

- ①第17回「親と子の古墳めぐり」担当。  
★5/5(火・祝) 『金江町の古墳を歩こう』今年は参加者が多かった(約160名)。
- ②郷土史講座担当
- |                              |      |
|------------------------------|------|
| ★2/21(土) 『邪馬台国時代の吉備と出雲』      | 網本善光 |
| ★7/25(土) 『津山周辺古墳について』        | 山口哲晶 |
| ★10/24(土) 『古代の山城について-見/聞から-』 | 七森義人 |
- ③第9回秋の古墳めぐり担当  
★9/20(日) 『秋の古墳めぐり 陶棺の謎にせまる-山の古墳めぐり-』山口・網本
- ④「古墳講座V」毎月第1土曜日 網本・山口・安原 毎回12名～22名が参加。  
(1月) 備前車塚古墳(2月) 大佐山白塚古墳、新市町歴史民族資料館(3月) 加茂造山古墳、吉備郷土館(6月) 辰ノ口古墳(7月) 倉敷ライフパーク見学(9月) 御年代古墳、梅木平古墳(10月) 三ツ城古墳(11月) 「発掘された日本列島'98」見学会
- ⑤掛迫6号古墳測量調査報告書作成の継続  
各項目の設定及び執筆分担表に基づき原稿を執筆。ほぼ終了し、現在編集中。

## 《歴史民俗研究部会活動報告》

- ①郷土史講座担当
- |                                |          |
|--------------------------------|----------|
| ★3/28(土) 『備後の式内社について』          | 平田恵彦     |
| ★6/27(土) 『記紀・万葉集にあらわれるふるさとの神々』 | 柿本光明     |
| ★8/22(土) 『他界は何処-古墳文化の横を渡る-』    | 辰巳和弘(招待) |
| ★9/26(土) 『家庭内の神祭りについて』         | 石井良枝     |
| ★12/12(土) 『大伴旅人とその周辺』          | 戸田和吉(招待) |
- ②バス例会 4/19(日) 『西大寺・牛窓の史跡めぐり』田口・平田、バス2台で大盛況。
- ③毎月第2土曜日 『古事記』を読む 毎回15名～24名が参加、中央公民館会議室。
- ④加茂町石像物分布調査 3月～5月。加茂町上加茂の分布調査はほぼ終了し、整理に入る。
- ⑤オリジナル企画 11/22(日) 『吉備磐座紀行II』参加16名  
牟佐大塚古墳、両宮山古墳、万富東大寺瓦窯跡、熊山遺跡、加三方遺跡、長福寺、天石門別神社、月の輪郷土館、石上布都魂神社を見学する。

平成10年度支出入決算報告

勘定項目	収入額	摘要	勘定項目	支出額	摘要
会費	782,000	277人	会報印刷費	277,200	
	内訳		『山城志』印刷費	525,000	
	3,000×231人=693,000		通信費	355,010	切手代等
	4,000×20組=80,000		講演会費	119,545	講師宿泊・交通費含む
	1,000×3人=3,000		部会活動費	5,588	古墳石造物調査費等
	2,000×3人=6,000		事務費	146,203	封筒・用紙代金等
書籍等販売収入	206,327	『山城志』販売含む	広告費	10,500	
例会収入	335,597	例会収入・寄付等	諸会費	21,000	
銀行利息	1,107		雑費	19,610	
以上計	1,325,031		以上計	1,479,656	
前期繰越金	245,041		次期繰越金	90,416	
総計	1,570,072		総計	1,570,072	

監査の結果、上記の通り相違ないことを承認します。

監査委員 藤井忠夫、杉原外志子(印)

平成11年度予算

収入の部			支出の部	
項目	予算額	摘要	項目	予算額
会費収入	781,000	3000円×233人	『山城志』印刷費	350,000
		4000円×20組	会報『備陽史探訪』印刷費	275,000
		1000円×2人	行事案内等印刷費	30,000
雑収入	600,000	例会収入・書籍販売等	郵送・通信費	332,500
繰越金	90,416		部会活動費	90,000
			事務局費	50,000
			一般経費・諸費用	200,000
			掛迫報告書代	100,000
			予備費	43,916
総計	1,471,416		総計	1,471,416

\* 別途に特別積立金500,000円があります。

## 平成11年度活動計画

### 郷土史講座・特別講演会

日程	講座内容	講師	会場
1/24(日)	総会記念講座 『神辺町における最近の発掘調査から』	佐藤一夫	遺族 会館
2/27(土)	第2回郷土史講座 『杉原氏の出自について-杉原光平を中心として-』	木下和司	福山市民図書館集會室
3/27(土)	第3回郷土史講座 『三角縁神獸鏡と古墳』	網本善光	中央公民館
4/24(土)	第4回郷土史講座 『記紀編纂の謎に挑む』	佐藤壽夫	中央公民館
5/29(土)	第5回郷土史講座 『戦国水野氏の興亡』	田口義之	中央公民館
6/26(土)	第6回郷土史講座 『四隅突出型墳丘墓の謎に迫る』	安原誉佳	中央公民館
7/24(土)	第7回郷土史講座 『今高野山城主上原氏の滅亡について』	小林浩二	中央公民館
8/21(土)	特別歴史講演会 『未 定 』	千田嘉博	広島県立歴史博物館講堂
9/25(土)	第9回郷土史講座 『神殿の歴史について』	平田恵彦	中央公民館
10/30(土)	第10回郷土史講座 『備後北部の古墳について』	山口哲晶	中央公民館
11/27(土)	第11回郷土史講座 『毛利氏の八箇国分限帳について』	出内博都	中央公民館
12/ (土)	特別郷土史講座 『未 定 』	未 定	中央公民館

☆都合により日程・会場が変更になる場合があります。

### バス・徒歩例会・古墳めぐり・1泊旅行

日程	行事内容	講師
2/21(日)	徒歩例会 『小早川氏の名城、高山城に登る』	田口義之
3/14(日)	バス例会 『備中松山城に登る-毛利氏・三村氏の史跡を訪ねて-』	城郭部会
4/18(日)	バス例会 『誰も知らないおかやま』	歴史研
5/5(祝)	第17回親子の古墳めぐり 『神辺町の古墳を歩こう』	古墳部会
6/6(日)	バス例会 『しまなみ海道を越えて 今治・東予の旅』	田口・木下
9/26(日)	バス例会 『賀茂郡の史跡めぐり』	歴史研
10/16・17(土・日)	一泊旅行 『豊饒の大地 播州平野をゆく-国史館をめぐり旅-』	旅行委員
11/14(日)	秋の古墳めぐり 『備北西城周辺の古墳めぐり』	古墳部会
12/5(日)	徒歩例会 『引野の史跡めぐり』	田口・神谷・出内

☆都合により日程・コースが変更になる場合があります。

### 歴史研オリジナル企画

日程	行事内容	講師
3/28(日)♣	青春きっぷの旅 『神戸・西宮の史跡めぐり-五色塚と平教盛の須磨寺を訪ねて-』	平田恵彦
5/16(日)♣	井原線開通記念の旅 『国史館 備中福山城跡に登る』	種本 実

☆都合により日程・コースが変更になる場合があります。

♣雨天の場合は4/4(日)に順延。♣雨天の場合は5/23(日)に順延。

### 定期講座

日程	講座内容	部会	講師	会場
①毎月第2土曜日	『古事記』を読む	歴史民俗研究部会	神谷・平田	中央公民館
②毎月第3土曜日	『備後古城記』を読む	城郭研究部会	出内博都	中央公民館

☆都合により会場・時間が変更になる場合があります。

## 《城郭研究部会活動計画》

### ①月例研究会「中世を読む会」

第3土曜日午後7時から。中央公民館で開催。

中世を読む会『備後古城記』を読むは今年も継続してやっていく。

### ②郷土史講座担当

- |          |                        |      |         |
|----------|------------------------|------|---------|
| 2/27(土)  | 『杉原氏の出自について-概観を中心として-』 | 木下和司 | 福山市民図書館 |
| 5/29(土)  | 『戦国水野氏の興亡』             | 田口義之 | 中央公民館   |
| 7/24(土)  | 『今高野山城主上原氏の滅亡について』     | 小林浩二 | 中央公民館   |
| 11/27(土) | 『毛利氏の八箇国御時代分限帳について』    | 出内博都 | 中央公民館   |

### ③山城調査実施

今年も有志によって継続したいと思っている。縄張図の作成も随時やっていきたい。

第1回は福山市熊野町の「中山田山城」の調査を2月28日(日)に実施。※雨天中止

### ④バス例会担当

- 3/14(日) バス例会『備中松山城に登る-毛利氏・三村氏の史跡を訪ねて-』  
本年最初のバス例会なので大成功させたい。

### ⑤オリジナル企画 まだ決まっていないが、何かしたいと思っている。

## 《古墳研究部会活動計画》

### ①掛迫6号古墳測量調査報告書の作成

昨年果たせなかった報告書を早急に完成させる。

### ②第17回「親と子の古墳巡り」5/5担当

神辺町の古墳めぐりを実施。福山市・神辺町との共催にする予定。

### ③郷土史講座担当

- |          |                    |      |            |
|----------|--------------------|------|------------|
| 1/24(日)  | 『神辺町における最近の発掘調査から』 | 佐藤一夫 | 遺族 会館 (招待) |
| 3/27(土)  | 『三角縁神獣鏡と古墳』        | 網本善光 | 中央公民館      |
| 6/26(土)  | 『四隅突出型墳丘墓の謎に迫る』    | 安原蒼佳 | 中央公民館      |
| 10/30(土) | 『備後北部の古墳について』      | 山口哲晶 | 中央公民館      |

### ④第9回「秋の古墳巡り」担当

11/14(日) 『備北西城周辺古墳めぐり』 今年は汗をかかなくて実施できそう。

### ⑤「古墳講座Ⅴ」の休止

長らく実施してきた古墳講座だが、1月9日(日)「鬼ノ城」見学会の実施をもって休止に決定。今後は「新発掘考古展」見学などの臨時に実施。

### ⑥古墳分布調査の実施

有志による古墳分布調査を実施。興味のある人は山口まで問い合わせを。

## 《歴史民俗研究部会活動計画》

### ①郷土史講座担当

- |         |             |      |       |
|---------|-------------|------|-------|
| 4/24(土) | 『記紀編纂の謎に挑む』 | 佐藤壽夫 | 中央公民館 |
| 9/25(土) | 『神殿の歴史について』 | 平田恵彦 | 中央公民館 |

### ②バス例会担当

- 4/18(日) バス例会『誰も知らないおかやま』  
9/26(日) バス例会『賀茂郡の史跡めぐり』(こちらはコースを変更するかも)

### ③毎月第2土曜日「古事記」を読む 中央公民館会議室午後2時

最大はすでに達成、常に最強を目指して今年もしっかりとやっていきたい。

### ④加茂町の石造物分布調査

現地調査は補足的に実施する予定。来年中には報告書出せるようにしたい。

### ⑤現地学習会

今年オリジナル企画を2つ用意した。秋か冬にさらにもう1つ増やすかも知れない。

- |         |                                      |      |
|---------|--------------------------------------|------|
| 3/28(日) | 青春18きっぷの旅『神戸・西宮の史跡めぐり-五穀と稲穂の痕跡を訪ねて-』 | 平田恵彦 |
| 5/16(日) | 井原線開通記念の旅『国史跡 備中福山城跡に登る』             | 種本 実 |

## 新役員承認事項

平成11年度総会において安原誉佳さんが新たに古墳部会の評議員として承認されました。任期は1年です。

## 備陽史探訪の役員

名誉会長 神谷和孝 会長 田口義之  
副会長 山口哲晶、中村勤史、馬屋原亨  
参与 中西晃、末森清司、後藤匡史、佐藤洋一、種本実  
森田英夫、柿本光明、廣川茂夫  
事務局長 平田恵彦  
事務局員 佐藤秀子〔会計担当〕、佐藤錦士、寺崎久徳  
木下和司、三好勝芳、塩出基久

(歴史民俗研究部会)	(古墳研究部会部会)	(城郭研究部会)
部会長 神谷和孝	部会長 山口哲晶	部会長 出内博都
副部会長 平田恵彦	副部会長 網本善光	副部会長 杉原道彦
		副部会長 小林浩二
評議員 石井良枝	評議員 篠原芳秀	評議員 黒木日出人
評議員 佐藤壽夫	評議員 七森義人	評議員 坂本敏夫
	評議員 安原誉佳	評議員 高端辰巳

## 備陽史探訪の会監査委員

★監査委員 藤井忠夫、杉原外志子

## 平成11年度会報・行事案内発送計画

1 / 1 (金)	行事案内	(事務局による発送作業)
2 / 13 (土)	会報87号	(『古事記』を読む終了後作業)
3 / 13 (土)	行事案内	(『古事記』を読む終了後作業)
4 / 17 (土)	会報88号	(「中世を読む」終了後作業)
5 / 8 (土)	『山城志』・行事案内	(『古事記』を読む終了後作業)
6 / 12 (土)	会報89号	(『古事記』を読む終了後作業)
7 / 10 (土)	行事案内	(『古事記』を読む終了後作業)
8 / 7 (土)	会報90号	(事務局による発送作業)
9 / 11 (土)	行事案内	(『古事記』を読む終了後作業)
10 / 9 (土)	会報91号	(『古事記』を読む終了後作業)
11 / 13 (土)	行事案内	(『古事記』を読む終了後作業)
12 / 18 (土)	会報92号	(「中世を読む」終了後作業)

☆都合により変更する場合がありますのでご了承下さい。

# 備陽史探訪の会、一泊の旅を彩った ドラマの数々

小島 袈裟春

十月十七日、大型の台風十号が九州南部に接近してきた。

早朝の福山駅は激しい雨だった。今回の旅は初めから「雨天決行」の予定なのだから、別に何のことはないのだが、たまたま台風の接近という事態がリアクションとなってドラマが展開していくのである。

今日の旅の予定は一日目。

姫路からJR播但線の竹田駅（和田山町竹田）の背後にある竹田城と同町寺内にある歴史民俗資料館の見学。出石町内史蹟の自由散策と宗鏡寺および出石神社の見学。宿泊は円山川河口の豊岡市「かんばの宿」。

二日目。

京都府久美浜町内の神社と仏閣。宮津市の国府跡および府立博物館、籠神社と智恩寺。加悦町の古墳公園。

大略以上のような行程なのであるが、私としては初日の竹田城の見学に最も期待をかけていたのであった。たぶんほかの方もそうだと思う。

竹田城は播但線竹田駅のすぐ西の標高三三〇の古城山の頂上に築かれた中世の山城跡であって、そのほぼ全域に積み上げられた見事な石壁が当時のままに残っている、ということ、国の史跡に指定された山城跡なのである。

さて、強い雨について走るバスの中で、会長始め関係役員が協議の上二つの対案が出てきた。

その一。竹田城へは麓から約四分をかけて徒歩での登攀を予定していたが（本会の恒例）、登山道が濡れて危険なので、往復とも大型タクシーを利用してピストン輸送をする（実は大手門の直下まで一般車で登ることができるとのこと）。

その二。ただし、それでも雨が強く霧でもかかれば、視界も利かず、足下も不安。車のスリップの危険もあるので見学先を姫路の博物館・庭園に変更する。

なお、途中のサービスエリアで現地の気象を問い合わせの上、参加者の意思をもって決定する、というものであった。

気のせいかな、私にはその頃から雨が弱まってきたように思えた。

「雨は霧雨程度、高い山には霧があるが、竹田城には霧もかからず、麓から城の石垣がすっきりと見える」これが現地の情報で、バスの中で採決すると、圧倒的多数で竹田城に決まった。

竹田城の麓の「ドライブイン朝来山」には、九人乗りのタクシードライバーが待っていた。これはこれは、天祐神助であった。

大手門跡の枳形を抜けると、広い広い北千畳という郭があった。右手眼下には竹田の町並がくっきりと望め、播但線の電車が今しも駅に入るところであった。

一八〇ほど北西の天守台跡と思える石垣に、うっすらと霧がかかっていたが、第二陣が到着するころには霧はすっかり晴れて、西空の雲間には青空もちらりと見えた。

さて竹田城は想像を越えていた。標高三三〇の独立峰に築かれたとはとても思えぬ縄張りで見事な石垣であった。初め北千畳から霧にかすむ本丸方向を眺めたときは、思わず息をのんだ。

その縄張りや歴代城主の概要を旅行委員が心血を注いで作成した旅行資料から転記してみる。

### ▼本丸

最高所に位置して中規模不整形の郭であるが、東端に二之丸×一之丸ほどの天守台がある。石垣の高さは本丸からは二之丸であるが、東側下の二之丸から続く馬出しからは一〇以上の高さがある。

### ▼北東郭

本丸から東の虎口を経て、中規模の二之丸がある。その北側に本丸を回って西の平殿から続く長い郭があり、「武の門」と呼ばれる虎口を経て、中規模の三之丸に続く。さらに嚴重な枳形虎口を経て、広大な北千畳がある。その南側に大手門がある。本丸からの全長は一八〇ほど、全郭石垣で構成されている。

### ▼南郭

本丸から南二之丸への通行は複雑である。天守台の石垣に沿った高く急な石段を、東の二之丸から続く馬出しに出て、西の奇妙な枳形から平殿という本丸の北を回る長細い郭に出ると、嚴重な枳形の先に南二之丸がある。

この郭の東に正門があつて、正門を南に下がると本城最大の南千畳がある。本丸からの全長一八〇ほど、南千畳の一部石垣のないところもある。ただし、それを補うためか付近に長大な堅堀が数本設けてある。

▼花屋敷

本丸の北西に、平殿から数ヶ所の虎口を下がると、中規模の花屋敷と称する郭がある。特徴は東西の石垣上に石塁を組んだ鉄砲狭間が設けられていることだ。この郭の構築はやや時代が下がるといわれる。

城全体の平面形は平仮名の「く」の字形で、その屈折点に本丸がある。城跡の全長は約三七〇メートル。最高所は本丸天守台で標高約三三〇メートル。

北端の北千畳と南端の南千畳および本丸北西の花屋敷はいずれも標高三三〇メートル、ほぼ同一標高である。このことは優れた設計技術とともに高度の土木技術があったことを証拠づける事実でもある。

▼築城時期と城主  
伝承によれば、嘉吉年間（一四四一～一四四三）に当時但馬守護、山名宗全が南の播磨の守護赤松氏に対抗して築き、重臣の大田垣氏の守備を任せたとする。以後大田垣氏が五代百三十余年にわたって在城した。

天正八年（一五八〇）領主の山名氏が最後の居城出石の有子山城を羽柴秀長に攻められて滅亡すると、大田垣氏は主家に殉じた。

以後、羽柴秀長が但馬の領主となったが、竹田城の守備者は分からない。

天正十一年（一五八三）賤ヶ岳の合戦の後、羽柴秀長の重臣、桑山信晴が城主となった。

天正十三年（一五八五）播磨の赤松政秀（広秀）が城主となる。慶長五年（一六〇〇）関ヶ原の合戦の後、城主赤松政秀が自刃して竹田城は廃城になったのである。

さて、自由見学の後、旅行委員から初期の城主の館があったという城の北の安井谷やその出口を守る安井城等の説明を受けた。台風十号も雨も忘れてしまった。下山のタクシーでバスに戻ったら小雨が振り出してきた。

竹田城は、何故か「備陽史探訪の会」に登城し、ぜひ見学して欲しかったのかも知れない。台風十号接近の雨が一時間余りの見学中だけ何故晴れたのであろうか。「何ものか」が我々一行が見学先を姫路に変更しようとして相談していることを察して、天を制御したのかも知れない。

これは正しくドラマであった。そして、その答は帰途のバスの中で解明されたのであった。

▼和田山町歴史館

次いで和田山町寺内の町立歴史館に着いた。ドアは固く閉まって「土曜日午前中で閉館します。またのおいでをお待ちしています」と札が掛

かっていた。前庭に造られた古墳や箱式石棺のミニチュアを眺めて帰りがけたら、旅行委員の機転で館長が到着し、ドアが開いた。館長のボンミスらしかった。

展示品では、三角縁神獸鏡三面を含む六面の銅鏡があったが、三角縁神獸鏡はこのところちよつと食傷気味で、唐草文帯重圈文鏡が私の目を引いた。

もう一つ金銅製の頭椎太刀が目についた。金銅部分が綺麗で、柄も鞘も原形を留めている。余りの見事さに初めはレプリカであろうと一人合点していたが、後で本物と分かり、質問しなかつたことが悔やまれた。

出石町の観光センターで台風十号は九州枕崎付近に上陸し、東北方向に速度を速めているとの情報を得た。後は出石町の自由見学、宗鏡寺および出石神社の参詣。

まずは素晴らしい一日だった。次の日の朝、台風十号は能登半島沖に過ぎ去った。風も雨も止んでい

た。目の前の円山川は土手ぎりぎりに増水してゴミや材木を流し、上流の氾濫を示していた。八時過ぎに出発。暖かな日差しである。ただし、予定の豊岡市ルートは円山川の氾濫で通行不可。山道の三原峠越えて久美浜町に出る。

▼如意寺

志を叶えて下さる寺。家内安全を願って不動堂をカメラに収めた。バスに戻ったら雨となった。台風十号の名残りである。

神谷太刀宮、久美浜駅は車中見学となった。

▼京都府立丹後郷土資料館

成相寺に続く山並の麓に建つ郷土館である。ちょうど文殊菩薩で知られる智恩寺の絵馬の展示が共催されていて充実していた。

考古室では、大風呂南墳丘墓（古墳ではない）出土の美しく見事な青色のガラス釧の完品が注目を集めていた。同じく貝輪形の銅釧が十三個もあった。これは南海産のゴホウラ貝の腕輪を模したものとのこと。他には十一本の鉄剣、勾玉等が目を見

資料館の前には丹後国分寺の跡地とのこと。今は草地で礎石があるのみだが、「雪舟筆天橋立図」には巨大な国分寺が描かれているので、室町時代には信仰を得ていたであろう。その後、一色氏と若狭守護武田氏との合戦で焼失したのだそう。

▼籠神社

昼食を予約した食堂の若い女性が案内してくれて、本殿の千木が「内削」なのは祭神が「女性」の証拠と

# まほろばの旅

石井 しおり

いう。それで説明板に書いてある主祭神「天火明彦命」は男性であることを教えたら彼女はすっかり悩んでしまった。

午後は文殊様に参詣。加悦町の壮大な古墳公園を見学し、大江山の西側のトンネルを抜け、福知山から高速度道に乗り、一路福山に戻った。

さて、旅の締め括り、中村副会長は今回の旅の内輪話を柔らかく余すことなく率直に教えてくれた。

台風接近。責任感の重圧に揺れに揺れる役員各位の心の内、その心情を百も承知で決然、決行の断を下した田口会長を、もともと樂觀主義者で呑気者だと泣き笑いでこき下ろす中村副会長。私は不謹慎にも笑って笑って笑い抜いて涙が出るほど笑い抜いて四十分、あつという間に福山駅に着いてしまった。御免なさい。

そうだ。竹田城見学の奇跡のことだ。中村副会長は挨拶の中で竹田城主の大田垣氏は備後守護山名氏の名代として備後の守護代を務めた。縁が深いのである。備後の民がせっかく本城を訪ねるのに台風で中止は意にあらざと、束の間の接待をしたのであろう、そうおっしゃった。私も同感であった。神々の道は神のみぞ知ると。

十一月下旬の天気はいっそう冴え渡り、夜空が透明感を増している。

そんな季節の朝早く、奈良盆地三輪山周辺の寺詣でと紅葉狩りに赴く。道連れはIさん統率による水もしたたる男女八人衆である。

まず、多武峰に建つ談山神社へ。室町時代の再建による松皮葺きの屋根が優美な姿を、全山紅葉の中に、絵の如く浮き出させている。

祭神は藤原鎌足。この多武峰に登り、若き頃の天智天皇と密議して、大化の改新を断行したいわれの山である。

本殿はもとより、白鳳期に創建後、室町時代に再建の「十三重塔」も奥床しい。

それに続き、鎌足公の長男、定恵の開基といわれる聖林寺へ向かう。

ご本尊は大きな石に刻まれた地藏菩薩で、別名「子授け地藏」とも呼ばれ、力強くお美しい。ちよつと触ってみたい衝動の私達を目にしたお寺さんは

「勿体ないことを」

と、たしなめの制止をなさる。仏徳に気もそぞろの一人が尻餅をつく

や否や

「お怪我はないか」

と手を貸して下さった。その時私達は、石仏が少し揺らいだような気がしたのだけれども。

やがてご住持は袈裟を整え、

「この空間から遙か遠く三輪山をごらん下さい。太古以来、この近辺の丘陵や清らかな川のせせらぎは、黎明の日本政治発祥の物語を今も伝えているのです。私も歴史が好きですが、今日は参拝者が多いのでこれにて切り上げます。ハイハイ」

と。私達はこれからが本番とばかりに、気負いの膝を並べて座つたのに、まことに残念であった。

本尊の石仏の上のお堂に在わす十一面観音さまは、何という優美で柔らかな曲線とお顔であろうか。水瓶をお持ちになつている。しばし立ち止まって見とれるばかり。

談山神社参道に出て昼食。満員の客でなかなか出てこない「肉うどん」はとても美味しかった。

続いて阿倍文殊院へ。

文殊菩薩に脇侍像、一二〇〇年代快慶作を始め、一六〇〇年代桃山期の木造の仏さま。端正なそのお姿に、時空を越えた生命力の深さを、手を合わせつつ感得する。

寺内の抹茶席へ通る。餡入りの

「らくがん」のおもてなしで、心豊かなひとときを過ごす。紅葉の庭も一入の艶やかさであった。

連休初日の今日は、バス満杯の観光客で渋滞続き。予定より二時間遅れで宿泊地の駅に辿り着く。

日は沈み、暗い山の稜線と、遠くにポツンポツンと家の灯り、かすかに川のせせらぎが。引率の幹事さんがただ一人、門灯を頼りに走り回って戸を叩く。やつと五軒目で

「オーイここだ」

の呼び声。俄に元氣と空腹を感じて足が速まる。

闇に透かす「ペンションまほろば」には、広い前庭と重厚な屋敷門、白壁の土蔵がくつきりと二つ。広い築庭と、四、五百年も経たと思われ、榎の木が天を覆っている。

ご主人様が接客と外交、奥様と中学生くらいの二人のお子さんが料理全般を忙しく支度していらしたが、その夕食の美味しかったこと。

特筆のものは「天然とりたてあまごの塩焼き」と「三種類の浅漬け」であった。あまごは頭も尻尾も胃袋に入り、皿の上には手作りのお太い串がポツンと残る。お漬物は、箸を向けた時には、一皿も無い。夕食後、この方は増量を申し出たので、朝食には十分に堪能することができた。

駅に向かうタクシーでこれを話題にしている

「きつと漬物は自家製だから美味しいんですよ。この辺りは家で漬け、一番よい塩梅のとき、お客に食べて頂く風習があるのです」

という話に続いて「ペンションまほろば」の前世の由来をしみじみと尊敬をもって幹事さんは語られたのであった。

奈良盆地で四百五十年も大庄屋という油屋を業とする当家は、戦後、農地改革の波を真面に受け、もろもろの末、ペンション経営を始められたとのこと。心暖まるおもてなしと、奥床しい現在を改めて知った次第である。

「ペンションまほろば」を目覚めも爽やかに発ち、女人高野の室生寺へ向かう。

室生山を背に、前には清冽な室生川が流れる室生寺。シャクナゲの咲く春は、どんなにか華やかなことであろう。鑑坂からの石段を昇り、やがて見えてくる奈良時代創建という五重塔は、先日の台風で後部が倒壊して痛々しかった。

時は今や錦繡の秋、全山を濃く淡く彩る紅葉の美しさに、唯、感歎の声ばかり。

心を残しつつ末寺の大野寺へ。

宇陀川沿いの寺の境内には、枝垂れ桜の古木が数株あり、四季桜が仄かに咲いて風に揺れている。

この寺と、川を隔てた正面の絶壁が彫り込まれている。信仰心と芸術の魂が一体となった工人達の姿を、彷彿とこの上に重ねる。

続いてその昔「泊瀬」あるいは死者の魂がとまる場所「陰り国」とも呼ばれた「初瀬」。いつの世からか今は「長谷」と発音する長谷寺へ。

高い位置にある駅から、谷底に降りるように、幾段も降りつき、初瀬川を渡り参道に至る。

菅原道真の「長谷寺縁起文」や本尊「十一面観音像」「曼陀羅」あるいは仁王門から屋上の鐘まで続く回廊式屋根付登廊など。

廊の左右のお庭は全山紅葉して秋の光のプリズムを通しつつ、濃い紅に、淡い金色にささめき渡っている。心地よい初冬の風が三輪の山々から吹き巡る。しばし佇み道の辺りの紅葉二、三片をノートに挟む。病んで久しい人に、心の長谷の旅をさせた。

暖かかった初冬のまほろばの旅、なだらかな自然の山々に分け入り、天地の恵みを受けた二日間、一同疲れ知らずの良き旅であった。

### 下関歴史紀行

坂井邦典

平成十年十一月十五日、午前三時半福山出発。同行者四人。

午前七時半、下関ICに到着。最初の探訪地は下関インターチェンジの近くにある。

**住吉神社（下関市一の宮住吉）**

長門一宮。祭神は住吉大神・応神天皇・武内宿禰命・神宮皇后・建御名方命である。本殿は九間社流造で、応安三年（一三七〇）守護の大内弘世が再建した。室町初期の神社建築の伝えており、国宝である。拝殿は天文八年（一五三九）毛利元就が寄進したもので重文。

**覚苑寺（下関市長府安養寺）**

この寺の境内にある長門鑄銭所跡は、奈良・平安時代に日本最初の銭貨の和銅開珎（編集部註）が鑄造されたところで、寛永年間（一六二四〜二〇）に銭范（鑄型）が発見された。寺の墓地には長府藩主（三・四・五代）の墓があった。また、軍服姿の乃木大将の銅像があった。

**乃木神社（下関市長府宮の内）**

乃木希典大将と静子夫人を祀っている。乃木大将は長府藩の江戸屋敷で生まれ、長府には十歳から十六歳

まで住んだ。境内には乃木家の旧邸が移築保存してあり、大将と母堂の並んだ銅像もあった。

また、境内には「君が代」の「古今集」の中にある原歌「わが君は千代に八千代にさざれ石の巖なりて苔のむすまで」の碑があり、その横に「さざれ石」が展示してあった。

**忌宮神社（下関市長府宮の内）**

長門二宮。第十四代仲哀天皇はこの地に豊浦宮を作って七年間政務を執つて崩御された。その後、神功皇后が天皇の御神霊を祀られたのが当社の起源である。

現在の社殿は明治十年（一八七七）の建築である。神職に鬼石と数方庭祭のいわれを聞いた際、新羅の鹿輪が瀬戸内海まで攻め込んで来て、この地で激戦したという伝承があることを知って驚いた。のちに天智天皇が朝鮮式山城を近畿まで造らせたわけが納得できた。

**功山寺（下関市長府川端）**

この寺はかつて長福寺といっていたが、長府藩主初代毛利秀元の墓があり、その法号から功山寺と改名された。境内に高杉晋作の騎乗姿の銅像がある。ここは奇兵隊を率いての明治維新回天拳兵の地でもあるのだ。

仏殿は天応二年（一三三〇）に建立され、鎌倉時代の唐様（南宋）建

築の典型的遺構。現存する我が国最古のもので国宝。大内義隆の養子大内義長が毛利元就に攻められ、この仏殿内で自刃した。義長は墓地の隅に葬られ、宝篋印塔が残る。

隣接して下関市長府博物館があるが、早朝のため開館していなかった。敷地内に万骨塔という大きな円形の塚がある。歴史の中で散っていった有名無名の勇士の供養塔で、「一将功成つて万骨枯る」という言葉がその由来である。

**赤間神宮（下関市阿弥陀寺町）**

壇之浦に続く関門海峡沿いの海岸に建っている安徳天皇をお祀りした社である。ちょうど七五三と菊花展で賑わっていた。平家一門の七盛塚・芳一堂の前の堀の直下に安徳天皇陵が林間にひっそりとあった。

すぐ西隣が春帆楼で、日清戦争終結後に伊藤博文と李鴻章との談判が行なわれた場所である。その一郭にある講和記念館には李鴻章の書が展示してあり、見事な筆跡であった。

**東行記念館・東行庵（下関市吉田）**

小月インターから下りた近くにある。「東行」は高杉晋作の号。晋作は奇兵隊を作り、明治維新初期に多大な働きをしたが、結核のため二十七歳という短い一生を終えた人物である。東行記念館は彼に関する資料を

展示している。

東行庵はもと山県有朋の無隣庵だったが、晋作の号をとって改名した。のちに晋作の側室おの（遊女出身）が尼（谷梅処）となって晋作の墓を守ることにになり、この庵を贈られた。いまは曹洞宗の寺である。この清水山中腹にある東行墓の周囲は紅葉がたいへん美しかった。

**中山神社（下関市綾羅木本町）**

祭神は中山忠光朝臣命・明治天皇・天照皇大神である。

忠光は明治天皇の叔父にあたる人で、幕末文久三年（一八六三）、同志三十余名と天誅組を結成し、倒幕の挙兵を奈良県五條市におこした。しかし敗れて数名と死地を脱し、長州藩を頼って逃れたが、この地で凶刃にかかって十九歳の命を散らせた。その墳墓の上に社殿を建てたのが中山神社の由来である。

境内には愛新覚羅社（祭神は浩命・溥傑命・慧生命）があった。浩は中山忠光の曾孫で、嵯峨家の娘に生まれ、溥傑と政略結婚させられた気の毒な運命の人である。

溥傑は清朝最後の皇帝宣統帝（のちに満州国皇帝）溥儀の弟で、日本の陸軍師範学校・陸軍大学を卒業した。娘の慧生は学習院大学の同級生と伊豆天城山中で心中した。

**下関市立考古博物館（下関市綾羅木）**

綾羅木郷遺跡（国史跡）の中に新しい博物館があった。きれいに整備してある古墳群を見渡せる高台の芝生の上で、ローンソんで買った弁当を食べた。今日は快晴、気温二十度、そよ風が吹き快適であった。

若宮古墳群の中の一号墳は前方部二段、後円部三段築成の前方後円墳で、全長は三九・七m。主体部は組み合わせ式石棺で、五世紀中頃の築造である。きれいに復元してあり、墳丘には芝生が植えられている。すぐ近くには弥生の墳丘墓もある。

敷地内の横穴式石室の岩谷古墳は移築復元である。六世紀後半の築造で、直径一三・六mの円墳である。そのほかにも古墳や弥生時代の堅穴式住居が復元してあった。

考古博物館の展示を見学してから、午後一時半より「夢・水・王権―古墳時代のまつり―」と題して同志社大学歴史資料館学芸員の辰巳和弘氏の講演を聞いた。結論を一口でいえば、古墳時代には水を神聖視して神を祀った、ということだった。

**土井ヶ浜遺跡（豊浦郡豊北町神田上）**  
豊浦郡豊北町の浜辺の近くで昭和二年（一九五三）から発掘調査が行なわれ、約三百体の弥生時代の人骨が出土した。これらの人骨は全部

顔を海のある西に向けて埋葬されていたのが特徴である。初めは鎌倉時代の元寇の時の蒙古人のものだと思われていたが、あとで弥生時代の地層に埋葬されていることがわかった。金関丈夫博士は、彼らを朝鮮半島を含む大陸からの渡来人であると考え、その渡来人と先住民である縄文人の子孫とが混血した結果、現在の日本人の原形が作られたという「渡来混血説」を唱えた。

その後、中国山東省に保管されている周末・漢時代の人骨を共同研究した結果、その人骨が北部九州・山口タイプの弥生人骨にそっくりであることが確かめられた。

人類学ミュージアムには、砂浜に横たわった約八十体の人骨を展示してあった。死後も故郷を見ている骸骨群を見て心より感動した。

また隣接の資料館では、沖縄地方原産の美しい貝で、弥生人が装身具として珍重したゴホウラヤイモガイを初めて目にする事ができた。

十七時土井ヶ浜遺跡出発。二十一時十分、福山東ICに到着し、今日の見学紀行は終わった。

（編集部註）  
原稿が送られてきた時点では「富本銭」が最古の貨幣であるとの報道はまだなかった。

# 吉備国シリーズ 吉備津の鳴釜神事

柿本光明

吉備国賀陽郡の庭妹の里に井沢庄太夫という者がいた。祖父は播磨の赤松氏に仕えていたが、嘉吉の乱の際、居城を逃れ去ってこの地に至り、三代の間、春に耕し、秋に刈り入れて家豊かに暮らしていた。

しかし、ひとり子の正太郎は家業の農業を嫌って酒に溺れ、女に耽つて、父の掟を守ろうとしない。父母はこれを嘆いて相談し「どこかの良家の美しい娘を嫁にすれば身持ちも修まるであろう」と探し求めていたところ、仲人となる人がいて「吉備津の宮の神主香央家の娘は生まれつき美しく、父母にもよく仕える。吉備鴨別命の後裔で、家系も正しいからさっと吉運であろう」といった。

庄太夫がたいそう喜んだので、仲人は香央家に行つて縁談の話をする。と一娘ももう十七歳になりますから朝な夕なに良い人に嫁がせたいものだ、心の休めぬ毎日を過ごしておりました」との返事である。早くも約は整つて吉日を選んで婚儀を挙げることになった。

香央家ではさらに幸運を神に祈るために、巫女や祝部を召し集めて御

釜祓いをした。吉備津の宮に参詣祈願をする人は、御釜の湯を奉り、吉凶を占う。巫女の祝詞が終わつて湯が沸きたぎると、吉兆ならば釜は牛の吼えるがごとくに鳴り、凶兆ならば音ひとつ立てない。これを「吉備津の御釜祓い」というのだ。

ところが、今度の婚儀については、釜は秋の虫が鳴くよりも小さな音さえ立てなかった。しかし、娘の親はそれほど気にせず婚儀は整つた。

磯良は井沢家に嫁いだから朝早くから夜遅くまで働き、いつも舅姑のそばを離れず、夫には誠意をこめて仕えたので、井沢老夫婦はこの孝行と貞節が気に入る、また正太郎も彼女の真面目さが可愛く、仲睦まじい夫婦仲であった。

しかし、生まれつき浮気っぽい本性はどうしようもない。いつの頃からか鞆の津の袖という遊女と深くなじみ、ついに身請けして近くの里に

別宅を構えた。それでも磯良は貞女としてけなげに振舞おうとする。ところが、正太郎は袖と駆け落ちし、ついに磯良は重い病の床に伏す身となつてしまつた。

一方、播磨国印南の里に袖の従弟で彦六という男がいて、出奔した正太郎と袖はしばらくここに滞在した。だが、袖は初め風邪心地ということだったが、病みついて物怪が憑いたように狂わしくなり、わずか七日にして死んでしまつた。一人になつた正太郎は地に伏して恋い慕つたが、亡き人の魂を招ぶ妖術が手に入るわけもない……。

以上は国学者上田秋成の怪談小説集『兩月物語』（全五巻、安永五年一七六七年刊）の巻三「吉備津の釜」の前半部の要約である。  
【磯良は非難の余地のないすぐれた貞女として、けなげに振舞おうとするが、正太郎はその誠実を二重に裏



神秘的な神事が行われる釜  
(吉備津神社・御釜殿)

切る。磯良が貞淑であればあるほど、運命的な男女の悪縁の相はあらわとなつた。「奸たる性」と、秋成はそれを正太郎の「性」に帰するが、そうすると、この「性」はいわば運命そのものの起因となる固有な「生」のありようを示すものとして、語られていることになる。

【袖の死の前後は「もののけ」「生霊」など「源氏物語」の用語を多用するが、趣向としては、六条御息所の生霊による六条院での女の急死を描いた「夕顔巻」の趣を採つたと考えられる】  
(以上「兩月物語」小学館版註)

吉備津神社(岡山市吉備津)拝殿から南に続く回廊を通ると、途中回廊が分かれ、右手に行くと「御釜殿」に出る。入母屋造りのこぢんまりした建物で、釜の鳴動で吉凶を占う神事を行なうところである。

吉備津彦は退治した温羅の首をこの御釜殿のかまどの下に埋めたが、唸りやまず、その声は人を悩ました。ある夜、温羅の霊が現れて、愛する阿曾女(温羅は阿曾邑の神官の娘を妻にしていた)に釜の火を焚かすならば、幸いあれば唸り、災いあれば唸ることをやめると約束したという。この伝説と神事を結びつけたものが「兩月物語」のこの巻なのである。

### 徒歩例会 締め切り迫る!

## 小早川氏の名城、高山城に登る

後に戦国の名将小早川隆景を出した小早川氏は、土肥実平の後裔として、鎌倉時代から戦国末期まで、安芸の代表的な国人「安芸殿・小早川殿」として全国に名を馳せました。

その本拠がJR山陽本線本郷駅の北に聳える国指定史跡高山城跡です。同城跡は小早川正平の画像に「祖元(茂平)築城」とあるように、鎌倉期に当地に下向した小早川茂平が築城し、以後、小早川隆景が沼田川対岸の新高山城に本拠を移すまで、約三百年にわたって使用された名城です。その間、たびたび強敵の攻撃を受けましたが、そのつど地の利と人の和によって敵を撃退しています。今回は、この名城「高山城」を時間をかけてゆっくりと見学したいと思えます。奮って参加してください。

(田口義之記)

### 《実施要項》

講師 田口義之会長

日程 二月二一日(日)

☆雨天順延。実施日は後日連絡。

☆集合場所 福山駅南口「釣人の像前」

☆集合時刻 午前九時一〇分

☆現地参加者は午前一〇時二〇分に

JR本郷駅に集合してください。

☆午前九時三二分福山発糸崎行乗車。糸崎乗換え。本郷着一〇時一六分

☆電車代 七四〇円【福山→本郷】参加費 五〇〇円

【資料代・保険料込・交通費は各自負担】

募集定員 先着七〇名

申込方法 事務局まで電話で!

★必ず申し込んでください。飛び入り参加は事務整理上たいへん困難

ます。一二月例会では資料が大量に不足し、大混乱しました。

☆受付中。一八日(木)締め切り。

### 《注意事項》

☆弁当・飲物持参。歩きやすい服装でご参加下さい。

☆高山城登山口まで徒歩約二五分。

登山時間は約三〇分。ただし、現地の状況によって変わる場合があります。

りますのでご了承下さい。

☆なお、一五時二〇分「本郷」発の岡山行のJR線で帰福予定です。

## 「古事記」を読む

### 《実施要項》

日時 三月一三日(土)午後二時

会場 中央公民館会議室

座長 平田恵彦さん(産民研副会長)

テキスト代 一〇〇〇円

(岩波文庫ワイド版「古事記」資料代はそのつど一〇〇円程度)

## 事務局日誌

平成一〇年二月五日(日)

徒歩例会「初冬の服部谷に中世の面影を訪ねる」講師田口会長・木下さん。参加八二名。

二月一〇日(木)

役員会。出席者一三名。会則改正原案などを検討、激論になる。

二月一二日(土)

第一二回郷土史講座「大伴旅人とその周辺」講師は戸田和吉先生。

参加四四名。於「サンピア福山」

二月一二日(土)

忘年会開催。出席四四名。

於「サンピア福山」

二月一九日(土)

「古事記」を読む。参加二三名。

午後二時。終了後会報発送作業。

参加一二名。

午後七時。「備後古城記」を読む。

参加一六名。平成十年度最終行事。

平成一一年一月九日(土)

新年第一回の行事は鬼ノ城見学会。

参加は二二名。

一月一〇日(日)

一〇時役員会。出席者一七名。新年度予算・行事計画の審議、決算の報告の検討。

一月一六日(土)

午後二時。「古事記」を読む。参加

二一名。午後七時。「備後古城記」を読む。参加一八名。

二月二四日(日) 一〇時半。役員会。出席者一七名。内規の改定を議論する。

一時半。総会記念特別講演会開催。「神辺町における最近の発掘調査から」講師佐藤一夫先生(神辺町教育委員会) 参加六三名。

三時五〇分。平成十一年度備陽史探訪の会総会。参加七一名。

五時半。新年会。参加六〇名。

☆この日の会場は「遺族会館」。

一月二九日(金)

掛迫6号古墳報告書作成委員会。参加四名。於「ホーセン」。

☆室内行事の会場は、断わりのない場合、すべて福山市中央公民館。

「備後古城記」を読む

中世の備後の武將と山城に興味のある方はぜひご参加下さい。

《実施要項》

《日時》二月二〇日(土)午後七時

《会場》中央公民館会議室

《テキスト代》一〇〇〇円(既購入者不要)

《資料代》一〇〇〇円程度

《座長》出内博都さん(城郭部会長)

### 今年最初のバス例会

## 日本一の備中高松城に登る

—毛利氏・三村氏の史跡を訪ねて—  
「もし、日本三大山城を挙げよと言われれば私はその筆頭に迷わず備中高松城を挙げます」

これは「歴史読本」平成十年十月月号に掲載された「城郭探検倶楽部③」での「山城の鉄人」こと、城郭研究の第一人者、中井均先生の言葉です。

一般に知られている松山城は、臥牛山ふしうさんの一支峰、天守閣のある小松山ですが、遺構は他の三つの支峰、大松山・天神丸・前山にも広がっています。つまり臥牛山全山が要塞化されており、松山城に登ったことのある方でも見逃していらつしやることが多いのではないのでしょうか。

この松山城には以前から例会で行こうという話がありましたが、大手筋は非常に峻険で、登るのが大変なので延び延びになっていました。しかし、近年新道が完成して、背後から誰でも簡単に登られるようになり、このたび実施の運びになりました。

また、城郭の遺構を見学するだけでなく、名園のある頼久寺や石火矢町武家屋敷など、城下町としての高梁もじっくり味わっていただきますのでぜひご参加ください。

### 〈実施要項〉

〈講師〉城郭研究会(出内・坂本)

〈日程〉三月一四日(日)

〈集合時刻〉

午前七時四五分(時間厳守)

〈集合場所〉福山駅北口

(福山キャッスルホテル前)

〈会費〉会員 四四〇〇円

一般 五〇〇〇円

※頼久寺庭園と石火矢町武家屋敷の入場料・傷害保険料を含みます。

〈受付開始日〉

二月一七日(水) 午前九時から。

事務局に電話でお申し込み下さい。

早めのお申し込みをお勧めします。

〈その他〉弁当・飲物持参のこと。

歩きやすい服装でご参加下さい。

なおキャンセルは前日の三月一三日(土)までにお願ひします。

〈主な探訪予定地〉

▼備中高松城

「松山城は高梁川の左岸にあった典型的な山城で、一般的に平地に進出した近世城郭史上希有の例として知られており、同時に戦国期に国人層による激しい戦闘の跡が秘められている点でも、関心が寄せられている」

「全山が、いまでも鬱蒼とした自然林に覆われ、周囲が急峻な断崖を呈した天険の地である。備中国

内にあつて、伯備往来のほぼ中央に位置し、東西要路にもほど近いこの山城を守城することは、特に中世期における各民族にとつて、よほど重要な意味があつたに違いない。有力国人がこの城主をめざして攻防をくり返している事実が物語るように、松山城を手中に収めることが、国中にその武威を誇示する最短の方法であつた」

### 山城調査

## 魅る「つわもの共が夢の跡」

今年も城郭部会の事業として山城の測量調査を左記の通り実施します。山城に関する知識を深め、測量の技術向上のため会員の皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。

〈日程〉二月二八日(日)※雨天中止

〈集合時刻〉 午前九時

〈集合場所〉 明王院駐車場

(ここから現地までは会員のクルマに分乗しますので、バスでいらしてもかまいません)

〈参加申込〉 出内部会長まで

(☎〇八四九一五五—〇五三五)

〈受付開始〉

二月一七日(水) から。

〈受付時間〉 常識の時間内。不在の場合は、留守番電話へ伝言を。

〈調査する山城〉 中山田山城

(福山市熊野町中山田)

この城は観応年間(一二三〇—一二三五)に城主として、渡辺刑部左衛門忠、四郎左衛門直などの名を伝えま

す。山城として非常に整っており、遺構も多く残っています。

〈その他〉 弁当飲物持参

参加される方は山登りできる服装と靴で。また、なるべくナタ・カマ・

ノコギリ等をご用意ください。

歴史研オリジナル企画

五色塚古墳と平敦盛の須磨寺を訪ねて

▼日帰り青春18きっぷの旅「神戸・西宮の社寺史跡めぐり」▲  
ピンボーな人でも遠くまで旅行ができる「青春18きっぷ」は、使用方法が限られること等の理由で今まで敬遠していたのですが、やっぱりこれを利用して手はないでしょ!というわけで今回初めて企画しました。

▼「実施要項」  
【講師】 平田恵彦さん  
【日程】 三月二十八日(日)  
【雨天の場合】 四月四日(日)に順延。  
【集合場所】 JR福山駅改札口前  
【集合時刻】 午前四時四十五分!  
【間違いではありません】  
午前五時の始発「岡山行」に乗車。  
青春きっぷは途中合流ができません。ただし、別にうまい方法があるので平田さんにご相談ください。

【募集数】 四〇名限定(先着順)  
【参加費】 会員 三六〇〇円  
一般 四〇〇〇円

【青春きっぷ】 代・博物館二館の入館料・資料代・保険料を含みます。ただし食費や現地の私鉄料金(六〇〇円程度)は各自の負担です。

【受付】 平田歴史研副部長宅  
☎〇八四九―二三―三七八一

受付開始  
二月一七日(水)から。土日を除く夜八時から十時まで(厳守!)。  
【注意事項】  
●キャンセルは二日前の三月二十六日(金)までは無料ですが、これ以後はキャンセル料として二五〇〇円いただきます。  
●現地では、原則として徒歩で移動します。全体で五㎞程度歩きますので、歩きやすい服装と靴で参加してください。  
●昼食はJR神戸駅のファーストフード街でとりまます(安価です)。夕食は状況を見て判断します。もし食べる場合は姫路駅です。  
●帰着予定時刻は午後九時頃です。

【主な探訪予定地】  
▼五色塚古墳(神戸市垂水区)  
全長一九四mもある兵庫県最大の古墳で、全国でも二〇位の前方後円墳。墳丘は完全復元され、その巨大さにはとにかく圧倒される。眼前に明石海峡が開け、大橋が迫って見える景観が素晴らしい。  
▼須磨寺(神戸市須磨区)  
真言宗。新西国観音霊場二十四番

札所。本尊聖観音立像等は国重文。この寺の周辺が源平合戦の古戦場。「平家物語」の悲劇のヒーロー平敦盛の墓がある。他にも境内には源平合戦ゆかりのものが多く。  
▼湊川神社(神戸市中央区)  
楠木正成の戦死の地。水戸光圀の建立した有名な「嗚呼忠君楠子之墓」があり、社殿も立派。  
▼神戸市立博物館(中央区京町)  
さすが神戸! 県博レベルの展示が素晴らしい。国宝桜ヶ丘銅鐸等の古代史分野がとくに充実。予定の一時間では見きれないかも。  
▼辰馬考古資料館(西宮市松下町)  
銅鐸・銅鏡等の青銅器と富岡鉄斎の作品所蔵では日本有数。当日は鉄斎の特別展の開催中で、残念ながら青銅器は見られない。  
▼西宮市立郷土資料館(川添町)  
図書館もある総合文化センター内にある。展示は小規模だがよくまとまっている。ここは無料。

▼西宮神社(西宮市社家町)  
いわずと知れた全国の「恵比須神社」の総本社。「えべっさん」にお参りすれば金持ちになれるかも。  
▼傀儡師故跡(西宮市産所町)  
「えびすかき(人形操り)」を生業とした西宮の傀儡師は昔から有名で、この地を中心に活躍した。

第三回郷土史講座  
『三角縁神獸鏡と古墳』  
一般に、三角縁神獸鏡は「魏志倭人伝」に記録の残る、卑弥呼が魏から与えられた「銅鏡百枚」にあたとされていきます。しかしこの鏡が実際に出土するのは古墳からで、卑弥呼の時代と時間的なズレがあります。これを説明したのが、故小林行雄さん(京大教授)の伝世鏡理論であり、各地の古墳における三角縁神獸鏡の同型鏡の分布状況から、この鏡をヤマト王権が配布した権力と権威の象徴とした、同范鏡理論でした。  
しかし、黒塚古墳などの発掘成果から、三角縁神獸鏡は呪物であって、ヤマト王権の権威の象徴ではないとする説(辰巳和弘さん、菅谷文則さん、河上邦彦さん等)も出てきており、この説は三角縁神獸鏡が卑弥呼の鏡であることも否定しています。では真実はいったいどちらなのでしょう。最新情報を交えて網本さんにお話しいただきます。

【実施要項】  
【講師】 網本善光さん  
【日時】 三月二十七日(土) 午後二時  
【場所】 福山市中央公民館会議室  
【受講料】 一〇〇円程度(資料代)

【網本善光さん】(古墳部会副部長)

